

ブドウ害虫コナカイガラムシの抑制

薬剤の種類と散布時期を組み合わせることで被害を抑え込む方法を開発しました

【背景・目的】

温室栽培のブドウでは、コナカイガラムシ類(フジコナカイガラムシ、クワコナカイガラムシ)が発生し、果実を汚して商品価値が著しく低下する被害が増えています。

そこで、コナカイガラムシ類の被害を抑え込む効果が高い薬剤と、効率よく抑え込める薬剤散布のタイミングを明らかにしました。



フジコナカイガラムシ クワコナカイガラムシ

図1 コナカイガラムシの成虫

【成果の内容】

1 コナカイガラムシ類の成虫は、ロウ状物質で覆われており、薬剤がかかってもはじいてしまうため薬剤が効きにくいです。このため、ロウ状物質で覆われていない幼虫の時期(図2)が効率よく抑え込めるタイミングになります。ブドウに使うことができる薬剤のうち、「トクチオン水和剤」と「トランスフォームフロアブル」がコナカイガラムシ類を抑え込む効果が高いことが分かりました。

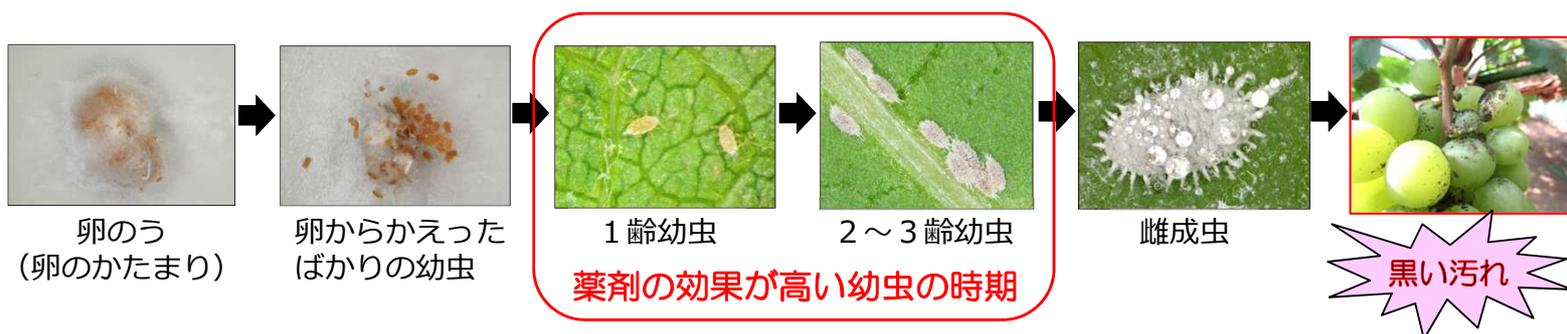


図2 コナカイガラムシの生育過程と果実被害

2 ブドウの芽から葉が出てくる(発芽)前に効果の高い薬剤を散布する(図3)ことで、コナカイガラムシ類の発生と果実被害を低く抑えることができます(図4)。

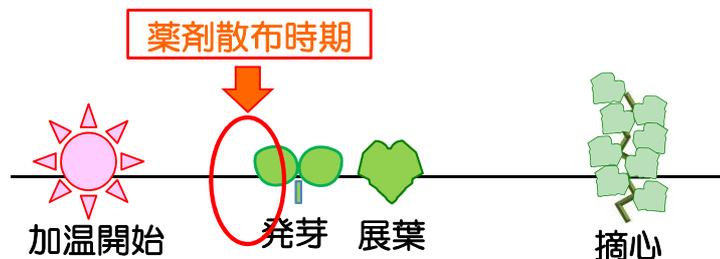


図3 温室ブドウの生育と薬剤散布時期

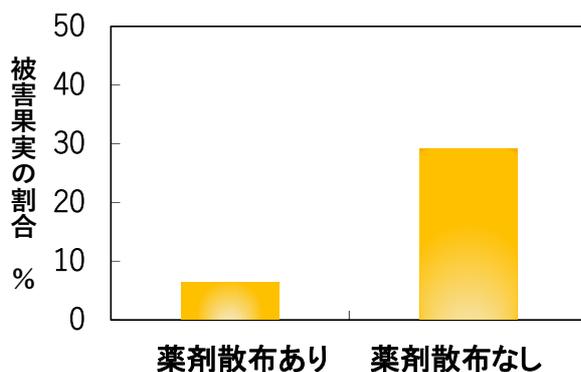


図4 コナカイガラムシ類に対するトクチオン水和剤の効果